

モニターの

注目

今月の登場は、宮村寛子さんです。

島地部の現状を理解するため実施した、市政モニターの視察研修では、島民の悩みや課題が伝わってきました。宮村さんは、笠岡諸島の深刻な高齢化に注目しました。

高齢者が安心して暮らせるシステムの構築を

射しを浴びて元気に育っていました。



市政モニターとして、島地部視察（真鍋島・北木島）に参加し、そのときに感じたことを報告させていただきます。まず、かねてより民俗伝承が深い島だと聞いていた真鍋島の港に降り立つと、沖からの心地良い潮風が身を包みましました。透明感あふれる海の色落ち着きのある板壁の家並みに囲まれて、島の刻はゆつたりと流れていました。手入れの行き届いた畑には、特産物として栽培が盛んになったゴーヤが、緑の体いっぱい陽

次に訪れた石の島、北木島では花崗岩が採掘されて、海面下まで掘り下げられた石切場を見学することができました。自然の恵みをうまく生かして発展した島だということがよくわかりました。



また、それぞれの島で活躍されている代表の人からは、島の現状と笠岡諸島の活性化についての話をお聞かせいただきました。急速に進行した過疎化と少子高齢化に悩まされながらも、笠岡諸島のどの島も活性化を図るため、地域を挙げての「島おこし」に取り組んでいました。



島の課題と島民の苦悩

島の人々は、就労の場が確保されていないために若者が島の外に出て、火が消えたように寂しいと胸の内をもらし、後を継ぐ者がいないことを訴えます。島で生きる高齢者の中には、生活の中で不安があっても、どこに相談していいのか、誰に話せばいいのか迷っている人がいます。だからといって、その人のために市役所の担当者が島まで行くのは大変だということもわかります。

不安の解消に向けて

そこで、地域の高齢者の相談を受けたり、生活支援を行う機関を設置してはいかかでしょうか。専属の相談員が、

高齢者の各家庭を廻って、日常生活の相談や、緊急時の不安の相談を受けられるサービスマンや、福祉用具のレンタルなどを実施してはどうでしょうか。緊縮財政といわれている昨今ですが、島々の福祉行政にはもっと力を入れてほしいと思います。どんなに不便でも、この島で、この町で、そして我が家で暮らすのが一番と、高齢者の誰もが望んでいます。

島の人々が老後も安心して暮らしていけるよう、優しく思いやりをもって支援していくための在宅介護支援センターのような機関が設けられることを期待します。

この笠岡諸島が、人々に活力を与えてくれる心のふる里であってほしいものです。

島々の海の色ささえ 風愉し
何をかせむと 我が胸ゆする

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてどうぞ。

お便り…〒七一四一八六〇一 笠岡市中央町一一一

企画政策課モニター係

☎2114 FAX22288